

2023 年漁期におけるニゴロブナ漁獲物調査

磯田能年・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

1. 目的

資源管理型漁業を推進するうえでの基礎資料とするため、ニゴロブナの主要な漁法である沖曳網漁および刺網漁での漁獲物の調査を行った。

2. 方法

調査は、2023 年 2 月 28 日に琵琶湖北湖北部の水深 66m で刺網により漁獲されたニゴロブナ 43 尾および、2023 年 3 月 6 日に、琵琶湖北湖北部の水深 60~70m の水域で沖曳網により漁獲されたニゴロブナ 71 尾を対象に実施した。沖曳漁獲魚は商品としての雌(外観から雌と判断されたもの。未熟な雌は雄と判断される。以下、銘柄雌)を収集した。刺網漁獲魚については商品としての雄、雌(以下、銘柄雄)を収集した。標本は冷凍保存とし、解凍後に体長および体重を計測した。また、開腹して生殖腺を取り出し重量を測定したのち、生殖腺指数(%) (以下 GSI: 生殖腺重量(g)/個体重量(g)×100)を算出した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

漁獲物の体長組成を図に示した。刺網、沖曳網ともに体長 190~210mm の個体が多く漁獲されていた。近年は小型魚の需要が多いため、漁業者も小型の魚を中心に漁獲していると考えられる。

年齢別の個体数およびその割合を表に示した。沖曳網では 1~4 歳魚、刺網では 2~5 歳魚が漁獲されていた。沖曳網では 2 歳魚、刺網では 3 歳魚が最も多く漁獲されており、いずれの漁法でも主に 4 歳以下の若齢魚が漁獲されていた。

雌の平均 GSI は、沖曳漁獲魚で 13.1%、刺網漁獲魚の銘柄雌で 11.3%であった。刺網漁

獲魚のうち銘柄雌、銘柄雄はそれぞれ 21 尾、22 尾であったが、銘柄雄のうち 20 尾は雌であり、その GSI は 2.1%であった。刺網漁獲魚の雌 41 尾のうち、20 尾(48.4%)が銘柄雌と扱われていなかった。

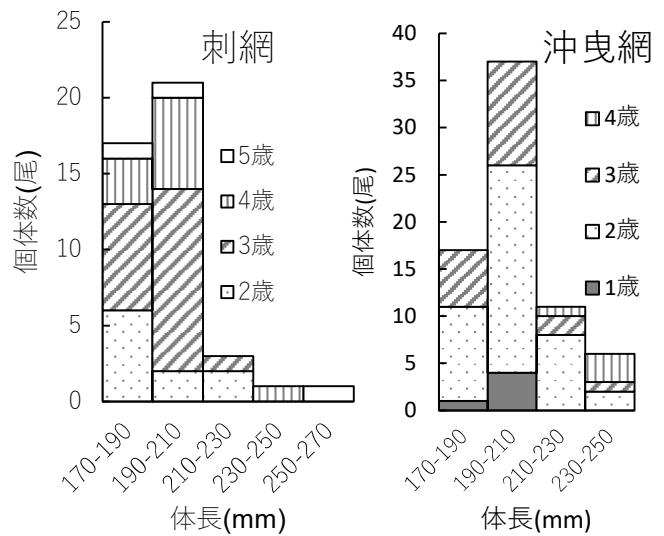


図 漁獲物の体長組成

表 漁獲物の年齢別個体数と割合

年齢	沖曳網漁獲魚				刺網漁獲魚			
	銘柄雌		銘柄雄		銘柄雌		計	
	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合
1	5	7.0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	42	59.2%	7	16.3%	3	7.0%	10	23.3%
3	20	28.2%	11	25.6%	9	20.9%	20	46.5%
4	4	5.6%	4	9.3%	6	14.0%	10	23.3%
5	0	0%	0	0%	3	7%	3	7%
計	71	100%	22	51%	21	49%	43	100%

本報告は、滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。